

# 令和元年度 第1回白根巨摩中学校自己評価書（前期）

令和元年8月23日作成

校長 芦澤 秀幸

記述者 教頭 浅利 進

## 学校教育目標

「思いやりの心と主体性・創造性を備えた白根巨摩中学生の育成」

- ・強い体と心をつくる（心身の調和的発達）
- ・すなおに見聞きし、考えて行動する（素直さ、考え意見を持つ力、実践力）
- ・美しいものを愛し、自分で創りだすよろこびを知る（本物・本質志向、創造力）
- ・働くことを好み、力を合わせてがんばりぬく（貢献、協働、努力、粘り強さ）

## 取組重点

- 1 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、情報や考えなどを的確に理解し、判断の根拠や理由を明確に示しながら、自分の考えを述べるができる資質・能力と態度の育成を図る。また、そのための授業改善に努める
- 2 道徳教育の充実を図り、思いやりと感謝の心を持ってともによりよく生きようとする人間性豊かな生徒の育成に努める。
- 3 生徒会活動における「4つのこだわり（あいさつ・清掃・服装・時間）」の取組を通し、こだわりの理由・意義を考えながら自主的・自治的な活動のできる生徒の育成に努める。
- 4 一人一人が安全で安心な学校生活を送ることができるよう、施設・設備をはじめ生徒を取り巻く教育環境の充実に努める。
- 5 十五の春を見据え一貫性のある教育活動を目指した小中学校の連携を推進するとともに、家庭・地域との連携をより深め、みんなでよりよい生徒の育成に努める。

## I 全体評価

※A：5点，B：4点，C：2点，D：1点と換算し平均4.5を目標と考えた。今年度も引き続きこの指標を使い学校評価について考えていきたい。なお、生徒アンケートについては平均4.0を目標とした。

全18項目中13項目が目標を上回る結果となった。得点分布に関しては以下のとおりである。

- |            |      |            |     |
|------------|------|------------|-----|
| 4.5以上      | 13項目 | 4.4以上4.5未満 | 3項目 |
| 4.1以上4.3未満 | 1項目  | 4.0以上4.1未満 | 1項目 |

多くの項目で目標とした4.5以上を得たことは、自分たちの実践が高い水準を保っていると評価しているということがいえる。特に「教科指導」の「あなたは基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を目指した指導に努めている」と「信頼される学校」の「あなたは教職員としての自覚を持って、職務に従事している」の項目はいずれも4.9と高い評価をしていることから、生徒に対し誠実にきめ細やかに対応している自覚を持っていることが分かる。しかし、「教科指導」の「あなたは学習の定着を図るため、計画的な家庭学習の手だてを行っている」の項目については、4.0となっており最も低い評価であった。家庭学習を取り組ませているものの、その成果がはっきりと表れていないことに課題を感じていることが分かる。校内研を活用し、他校の実践や研究等にも触れる中で、効果的な家庭学習への取組を推進したい。また、今回「特別活動」の「あなたは部活動の指導に適切に取り組んでいる」の項目は4.2で2番目に低い評価であった。本校の職員は非常に真面目に部活動指導にも取り組んでおり、それぞれの活動において、試合の結果からの評価と考えられる。部活動も教育活動であり、生徒にその競技や活動に対する意義を感じさせ、充実した活動であることを目標とさせることが目的である。結果にこだわらず、毎日の活動や、試合の時の態度においての評価になることを期待したい。また、無理のない計画の中で、部活動には取り組んでほしい。

「特別の教科道徳」の充実を図る、「あなたは「生徒が主体的に表現し合う授業の創造」の校内研テーマのもと、思考力・判断力・表現力及び主体的な学習態度の育成に努めている」、「あなたは合唱を文化活動の軸として適切に取り組んでいる」の3点の項目は4.4で目標よりもわずかに低い評価であった。いずれも、その指導に対する生徒の状況から見た評価であると考えられるが、生徒の結果から課題を見つけ、また新たに指導に工夫を重ねる努力をして、PDCAサイクルを大切にしたい。取組を組織的に図りたい。

II 各領域の評価	
1 学校運営	
達成状況	<p>◇領域平均は4.6であり、教職員は互いの協力体制のもと、学校教育目標の具現化に誠実に努力しているといえる。</p> <p>◇職務上の報告、連絡、相談、確認を行い、職場相互の信頼関係も良好である。</p> <p>◇「「特別の教科道徳」の充実」については平均4.4で、昨年度よりも0.1ポイント下回った。しかし、今年度より教科となり、教科書の使用や、評価への取組を考えると初めてのことはいえ努力している様子が伺える。授業への工夫、教育課程の検討等、校内研究会等で研究を推進し、自信を持って道徳授業の向上を図ってきた成果といえる。</p>
対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員一人ひとりが、学校経営方針を十分に理解し、教育目標を達成できるよう、生徒の実態に応じてきめ細かい教育活動を連携しながら推進していく。</li> <li>・学校全体の教育活動に対して、組織的に取り組めるように相互理解のもと、PDCAを意識し、常に工夫と向上を目指した取り組みを行う。</li> <li>・各自が勤務効率を考えた働き方についてセルフチェックを行い、互いにフォローできるように支え合う。また、管理職が教職員のメンタルヘルスについて細心の注意を払うよう心がける。</li> </ul>
2 教科指導	
達成状況	<p>◇教師アンケート⑤「あなたは基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を目指した指導に努めている。」は4.9となり、ほぼ全員が基礎基本の大切さを意識している。</p> <p>◇生徒アンケートのABの肯定的回答が④「学校の授業は楽しいですか。」が88%、⑤「学校の授業はわかりますか」が90%を超えている。しかし昨年度よりやや下回っており、課題が残る。</p> <p>◇生徒アンケートの⑥「授業中に先生や友達の話をしっかり聴くことができましたか」ではABの肯定的回答が95%を上回っており高い評価となった。</p> <p>◇全国学力・学習状況調査や学力把握調査の結果分析を行い、校内研究会において共通理解を図ることができた。授業改善への課題を研究していく。</p> <p>◇教師アンケート⑦「あなたは学習の定着を図るため、計画的な家庭学習の手立てを行っている」においては教師の意識改革と組織的な取り組みが必要である。</p>
対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やまなしスタンダードを基にした、授業改善に取り組む。</li> <li>・校内研究の取組を生かし、発問や板書を工夫し、生徒のノートの取り方の工夫や話し合い活動が主体的に行えるよう、楽しくわかる授業を実践することにより、生徒が達成感や充実感を味わえるようにする。</li> <li>・教師個人の力量を高めるための研修の機会を大切にし、研究校の公開授業に誘い合って参加できるような学び合う風土を醸成する。</li> <li>・管理職による授業観察を通して、指導・助言を継続して行う。</li> <li>・一人一実践の授業提案を通して、各個人の授業力の向上を図る。また、同僚の授業を精力的に参観し、自分の授業にいかすとともに、同僚の授業力向上に貢献できるような助言をする。</li> <li>・教育環境整備に努め、ICT活用を積極的に行う。</li> <li>・「学びの甲斐善八か条」を活用し、家庭とも連携し、家庭学習の時間の確保と、習慣化について粘り強い指導を行う。</li> <li>・生徒の連絡帳（スマイルライフ、やりとり帳等）や定期試験の学習計画表の取り組み表を活用して計画的に家庭学習を進めるように指導する。</li> </ul>

3 生徒指導について	
達成状況	<p>◇平均得点は4. 8で、昨年より0. 1ポイント上回り、⑧「あなたは問題行動等の早期発見・早期対応・早期解決に努めている」の項目で特に高い評価となった。これは担任・学年・部活動顧問・生徒指導等を中心に職員の共通理解のもと、学年の枠を超えて全体で指導が行われている結果とみることができる。本校の「いじめに対する基本方針」のもと、年5回のアンケート調査と個人面談等が行われている。</p> <p>◇生徒アンケート①「学校生活は、楽しいですか」の肯定的回答が92%を上回っている。また、②「学校でのきまりや約束事が守れていますか」が98%、清掃活動、時間のきまり、服装、あいさつについても94%を超えており、4つのこだわりについて高い意識があることが分かる</p> <p>◇生徒アンケート③「困ったときに相談できる人がいますか」についての結果は、全体的には4. 4で、昨年度の同時期よりも0. 1ポイント下回った。肯定的回答は88%を超えているが、学年によって差があるものの、引き続き生徒に寄り添った指導を続けたい。</p> <p>◇不登校等のケース会議を関係機関と連携して定期的に行い、保護者の願いを丁寧に聴き取るよう心がけた。</p> <p>◇大きな問題につながる生徒指導がなく、未然防止の取り組みができた。</p>
対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も全教職員が相互に連携し、学校としてのきまりや指導重点について共通理解し、学年の枠を超えた生徒への指導を行う。また、今後も報告・相談・記録などを丁寧に行い、必要に応じて関係機関とも連携していくようにする。</li> <li>・問題行動が起こらないための未然防止として、生徒への声かけを積極的に行い、心の教育を充実させたい。さらに、その情報共有を素早く、確実に担任や学年に伝えていく。</li> <li>・小学校との連携を密にし、小学校での様子や人間関係を共有し、悩みごと調査の実施やその後の面談等により、相談できる体制を確かなものにする。またアンテナを高くし、日常的な生徒とのコミュニケーションの中から、その心情を読み取ったり、トラブルを未然に防ぐように対応する。</li> </ul>
4 特別活動	
達成状況	<p>◇教員アンケートの⑩「あなたは人間としての在り方や生き方を指導し、豊かな心を育てようとしている」は4. 6で、教職員は様々な活動を通して、生徒の成長を意識して指導していることが分かる。</p> <p>◇教員アンケートの⑪「生徒の自治力の向上を目指し、計画的な指導を行っている」は4. 4で昨年と同じであるが、生徒アンケートの⑦～⑨の特別活動の評価はいずれも4. 5から4. 6の高い評価となっている。</p> <p>◇生徒アンケートでは、すべての項目で教員のアンケート結果よりも高い肯定的評価であった。「生徒会活動」「行事への協力」「合唱活動」のいずれにも91%以上の生徒が意欲的に取り組んでいることがわかる。なかでも⑧「行事はみんなで協力して楽しくできていますか」は95%、⑨「合唱に意欲を持って取り組んでいますか」については、93%以上の肯定意見が回答されている。</p> <p>◇教員アンケート⑫「あなたは部活動の指導に適切に取り組んでいる」について、今年度は4. 2という結果となった。目標よりも下回っているが、すべての部活動顧問は、熱心に部活動で指導していると感じる。</p>

対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期は学園祭（桃響祭）をはじめ、生徒が主体的に取り組むことができる生徒会行事も多い。生徒一人ひとりの参画意識を高め、意欲や積極性を向上させる絶好の機会として、生徒の自主性や主体性を引き出す取り組みを計画的に工夫していきたい。また、行事を通して、学年や学級の課題について考え、生徒個人の悩みについても知る機会とする。生徒会本部・学年生徒会・学級役員を中心に、自治的活動の基本でもある話し合いの活動を大切にしたい。</li> <li>・毎週月曜日を「部活動なしの日」とするとともに、月に2回の割合で、月曜日は放課後に部活動や会議を行わない「きずなの日」としている。また、休日の部活動年間活動日数を69日以下にするよう定めている。今後も、これら部活動の負担軽減計画を確実に実施するとともに、心身ともにゆとりを持った学校生活の過ごし方について考えていく。</li> </ul>
----	---

5 健康安全 信頼される学校	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇平均得点は4.7で昨年度と同じである。教員アンケート⑩「あなたは教職員としての自覚を持って、職務に従事している」が4.9で、教員としての責任と自覚をもち、職務を遂行していることが分かる。</li> <li>◇熱中症対策や通学路の安全確保、登下校指導等きめ細かく指導を行った。</li> <li>◇毎月の安全点検により、校舎内外の危険箇所や破損箇所への対応を行ってきている。</li> <li>◇不審者情報や非常変災に備えて学校安心メールに全家庭に登録していただいた。今後も危機管理を強化していくことに加え、保護者にとって必要な情報を迅速に提供するよう心がけていきたい。</li> <li>◇職員会議や校内研究会があるときは基本的に部活動を行わない。また、やむを得ず全顧問が部活動を行えない場合でも、必ず数名の教師が巡回指導をしている。</li> <li>◇生徒アンケート⑪「家の人と学校生活の様子などについて話をしますか」は4.2で、全体と比べると低い評価になっている。それぞれの家庭の事情もあるとは思いますが、各家庭との連絡は密にとっていく必要がある。</li> </ul>
対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の安全管理は、教職員が学校の設備や状況をどれくらい把握しているかによる。不安要素を除くために、常にどのような危険があるかを意識する必要がある。「大丈夫だろう」ではなく、「もしこんなことが起きたらどうなるか」を考えて、リスクの先にある重大事態＝危機（クライシス）を想定し、学校事故の未然防止について組織的に共通理解する。</li> <li>・部活動の指導について、安全対策や指導方法について、改善点や努力点を常に検討していく。</li> <li>・「学年便り」「給食・保健・図書・進路だより」等学校からの情報発信を積極的に行うとともに、それらを通して家庭との連携を密にし、生徒の健全育成に向けて一層努力していく。</li> <li>・地域からの連絡や支援を大切に、地域全体で子どもを育てる意識を醸成する。</li> </ul>